

て検討した。CVD 315 例の脳血管写 (CAG) で 51 例の脳主幹動脈閉塞があり、その中の 9 例 17% に失語症を認めたが、その失語症群の 10% 未満に左側閉塞症 (左利き又は両利き) が含まれてくる。中大脳動脈閉塞が最も多く、内頸動脈閉塞がこれに次ぐ。失語症の種類では運動・感覚失語又は全失語 58.3%, 感覚失語 25%, 運動失語 16.7% である。左下頭頂葉にグリオブラストーマがあり、ブローカが中心で、ウェルニッケに極く軽度波及もあり得る例で、わずかに感覚失語を加味するが、純粋運動失語に近い理論的に典型例を示した。さらに前回も報告してある Speech amytal test の結果から言語中枢でも各要素が分離して在ることを症例で示した。

脳性麻痺 (II) 筋ジストロフィー

I-28~34

I-28 脳性麻痺の周産期の risk 及び新生児期症状について

長崎大学整形外科 穂山富太郎 川口 幸義
M. サイボルト

佐世保総合病院整形外科 八並 信

脳性麻痺 185 例について retrospective に原因を調査した。未熟児も原因の一つであるが、脳性麻痺を生下時体重別にみると、2000 g 未満児では Diplegia が多く、2500 g 以上では Quadriplegia が多い。後者の痙縮型は仮死によるものが多く吸引、鉗子分娩の既往がみられる。またアテトイド型は多くは核黄疸によるが、仮死によるものもみられた。片麻痺では半数に仮死産の既往を有していた。

Lubchenco らは出生時体重 1500 g 以下で 33% に脳性麻痺発生があると述べている。黄疸については我々の調査によると、最高血清ビリルビン値が 30 mg/dl を越

えるとその 18.2% に脳性麻痺が発生している。仮死については生後 1 分における Apgar score からは予後判定は不可能である。

周産期の状態が詳細に把握できた正常児を含めた 59 例において、いかなる症例から脳性麻痺が発生しているかについて検討してみた。

仮死、無呼吸発作、黄疸などがあっても、その後の経過がよく、新生児期の異常症状が強くないものは正常に発達し、新生児期症状として痙攣、オピストトヌス、落陽現象の他に呼吸障害、啼泣微害、哺乳力低下、筋緊張の低下、原始反射の減弱などが持続したものに脳性麻痺が発生している。周産期、新生児期の症状から大方の予後は判定できるが、重症例を除けば新生児期をすぎる頃よりこれらの症状は次第に改善され、特に生後 1~2 カ月頃は正常児との区別がつきがたくなるので、反射、反応、運動発達の過程をじっくり観察することが大事である。脳性麻痺の場合は繰り返される観察により緊張性迷路反射の存在と筋緊張の異常増強を確認することができる。脳性麻痺の早期診断にとってはすべての Risiko-Baby を経時的に観察することが大切である。そしてたとえ確定診断が下せずとも運動発達障害の疑いをもたれた時点で直ちに治療開始すべきである。

《質問》 宮城県拓杏園 今田 拓

新生児の検診には専門的な立場として整形外科医も参加しておられるか。

《回答》 長崎大整形外科 穂山富太郎

今のところ整形外科医が独自のスケジュールで新生児検診を実施しているが、保健所検診では第一次スクリーニングを小児科医が行っている。

I-29 脳性麻痺児の呼吸機能と胸廓変形の関連性について

秋田県太平療育園 菅原 正信 斎藤 潔

脳性麻痺児に見られる不均等な筋緊張特に脊椎運動関与筋の状態について左右対称部位より平面電極を用いて筋電図を誘導し、その収縮比率より検討を試みているが、これらの筋緊張状態は習慣性の脊椎側彎症を惹起する原因の一因子とも考えられ、さらに胸廓変形の誘因とも考えられる。そしてまたこの筋の緊張状態は呼吸パターンを変える原因ともなり得る点を知った。呼吸パター

29) The respiratol function and the chest deformities in cerebral palsied children.
M. Sugawara, K. Saito (Akita-ken Taihe-Ryoikuen)

28) The Perinatal Risk and Neonatal Findings in Cerebral Palsy Children.
T. Akiyama, Y. Kawaguchi, M. Seybold (Department of Orthopaedic Surgery, Nagasaki University, School of Medicine)
M. Yatunami (Depratment of Orthopaedic Surgery Sasebo-Sogo Hospital)

1974 年 8 月